

北欧2国が同時申請

NATO加盟 トルコは消極姿勢

北欧のフィンランドとスウェーデンは18日、欧米の軍事同盟「北大西洋条約機構(NATO)」への加盟を同時に申請した。両国ともロシアによるウクライナ侵攻で危機感を強め、長年保ってきた中立の立場からの歴史的転換を決断した。

▼3面=防衛線増強、7面

=トルコに働きかけ

NATO本部(ブリュッセル)に駐在する両国大使がストルテンベルグ事務総長に申請書を手渡した。同氏は「申請は歴史的な一步だ。あなた方は最も近いパートナーだ。私は温かく歓迎する。我々は早急に結論を出す決意だ」と述べた。NATOは、ロシアと近接する両国の加盟を見据え、6月末の首脳会議で新たな安全保障戦略を議論する。両国は1994年にNATOとパートナー関係を締結。NATOとともに軍事演習やアフガニスタンなどの活動を重ねてきてお

り、多くの加盟国が歓迎姿勢を示している。両国が加盟すれば、欧州の安全保障に重要なバルト海近辺での連携が強化される。一方、ロシアはNATO拡大に対し続けており、加盟

によって緊張が高まるリスクの管理も求められそうだ。両国のNATO加盟には既存の30加盟国による全会一致の承認が必要だ。政治体制や軍事技術が水準を満

ト大統領とスウェーデンのアンデション首相は19日に訪米する。バイデン大統領に迅速な加盟手続きへの協力を求める方針だ。
(パリ=足田多揚、キーウ=高野裕介)

たすかを確認した上で、各國の国内手続きを経て正式加盟にいたる。申請から加盟まで数カ月から1年ほどかかる見通しだ。

トルコのエルドアン大統領は、自國がテロ組織に指定する勢力への両国の対応などを理由に、加盟に否定的な姿勢を崩していない。